

平成31年度校内研究について

平成31年4月研究推進委員会

(1) 研究主題

『主題に向き合い、共に読みを深める児童の育成』

～対話的な学びを工夫した文学的文章の授業づくり～

※ わかくさ学級については文学的文章に限らず、国語科の授業研究を行う。

(2) 研究主題設定の理由

1 学校教育目標の具現化から

本校では、

○「よく考えて 進んで学習」(知)

○「人に親切 仲良く協力」(徳)

○「強い体 やりぬく心」(体)

を教育目標に掲げ、日々の教育活動を行っている。

本主題は、国語科の「読むこと」の領域の中で「よく考えて 進んで学習」(知)を具現化し、思考力、判断力、表現力を高めようとするものである。

2 今日の課題から

複雑で変化の大きい社会の中では、様々な情報を受け止め、主体的に判断しながら課題を解決していくことが必要となる。

このことを踏まえ、問題発見・解決のプロセスの中で、知っていること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力の育成)が重要とされ、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善が求められている。

3. これまでの研究から

平成26年度～28年度、『言葉と向き合い、論理的に考える児童の育成』を研究主題に掲げ、レディネスを工夫し、第二課題を設定した国語科の説明的文章の指導法の研究を進めてきた。特に、平成28年度は、単元構成の工夫や読書活動の推進、交流の工夫など児童の実態に合わせた手だてを考え、指導法の幅をさらに広げることができた。

平成29年度からは、文学的文章の指導法の研究に取り組み、対話的な学びを工夫することで思考力・判断力・表現力の育成を図ることにした。**話合いの際、目指したい反応例を具体的に示したり、話合う順序を工夫したりすること等によって、少人数での話合い活動が自然に行えるようになり、自分の考えを明確にしたり、深めたいすることも少しずつできるようになってきた。しかし、①対話を取り入れる場面の適切な選定②対話の質の向上③少人数で話し合ったことを全体の話合いにどう生かすかという点も教師側の課題として明らかになった。**

以上のことから、昨年度の研究を深化発展させるべく、本主題を設定した。

(3) 目指す児童像

- ①文章の内容を根拠に、自分の考えを明確にしながら読む児童
- ②自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いて理解したりする児童
- ③自分の考えと友達の考えを比較して、よりよい考えを生み出すことのできる児童
- ④学習したことを基に、すすんで本を読んだり、考えを深めたりすることができる児童

(4) 研究内容

1) 研究領域

国語科（新学習指導要領における〔思考力・判断力・表現力等〕『読むこと』の領域、特に文学的文章を取り上げる。）

※ ただし、わかくさ学級においては、国語科の授業づくりに取り組むこととする。研究の視点については②・④を参考に分科会で設定する。）

2) 研究の視点

A：授業づくりの視点

① 単元における焦点化

単元の中において、育成すべき思考力・判断力・表現力等を明確にし、その育成に適した場面を選定し、対話的な学びを取り入れる。また、対話を成立させるための発達段階に応じた技能を整理し、習得を図りながら対話の質を高めていくことも必要であると考えている。【児童の育成状況を把握する必要がある。そのため、単元全体を見通して焦点化を図り（例えば主題に迫る場面でのみ取り入れる等）、対話的な学びの位置付けを明確にする必要があると考える。】

②自分の考えをもつ工夫

児童が文学的文章の読みを深めるためには、言語に関する知識・技能に関する内容をしっかり押さえた上で、課題を明確にする必要があると考える。また、**深い学びを実現するための、「言葉による見方・考え方」を身に付ける方法についても、今年度は検討していきたい。**

③対話を通して「深い学び」になるための工夫

人間関係や読解力、リーダー性など、児童の実態を考慮し、効果的な対話になるようにグループ編成をする。また、**課題や児童の実態に応じ、①自分の考えをもってから交流をする②交流をしてから自分の考えをまとめる…等、展開を工夫する。**

④読書活動・図書館活用につなげる工夫

司書と連携し、単元に関連する図書を読み広げるなど、読書活動や図書館活用につながるような取り組みをする。

B：言語環境の整備

<日常活動>

児童が日常的に言葉に触れ、言葉に興味をもつ環境作りも大切である。そこで、校内に言葉のコーナーを設け発達段階に応じて計画的に掲示する。季節の言葉や伝統的な言語文化、言葉遊びなど多様な言葉に触れさせる機会としたい。また、始業、終業の挨拶を発達段階に合わせて工夫する。

百人一首の取り組みや各クラスでの言葉を豊かにするための活動を紹介し全校に広げる。また、読書旬間などの読書活動についての取り組みも昨年度に引き続き充実させる。

<読書活動の推進>

児童が言葉を豊かにしていくためには、読書活動の推進も欠かせない。今年度も、図書館運営委員会を中心とした計画的な読書活動を行う。

- ・読書旬間の設定（6月3日～6月21日、9月24日～10月12日）

図書委員を中心に、読書に親しむことができるような工夫をする。

- ・各学年の読書量の設定

低学年は年間100冊、高学年は年間5000～10000ページを目標にし、カードに記録をさせる。

- ・読み聞かせ

教員や保護者、図書ボランティアによる読み聞かせを行う。

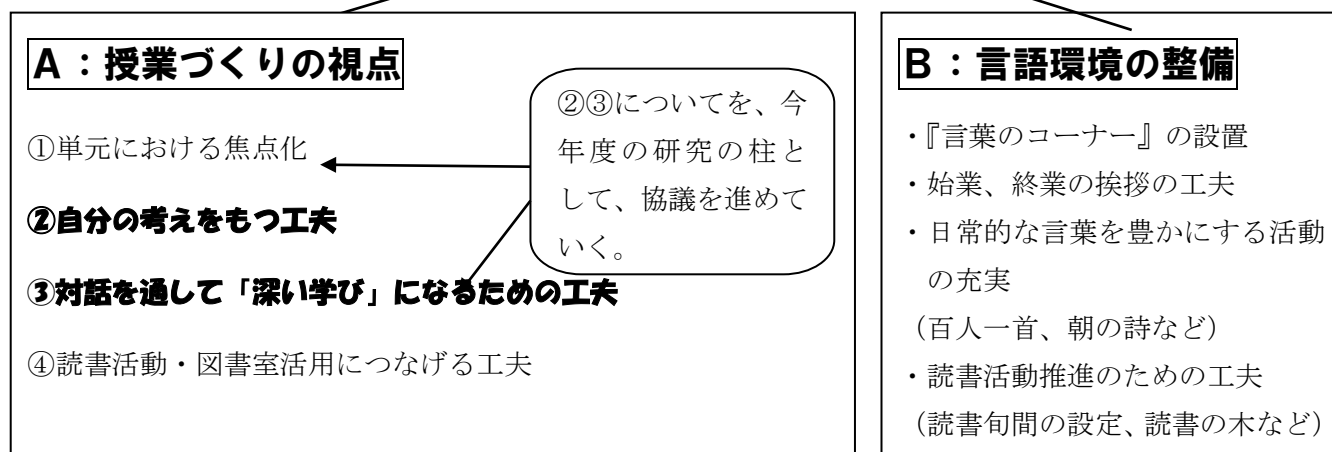
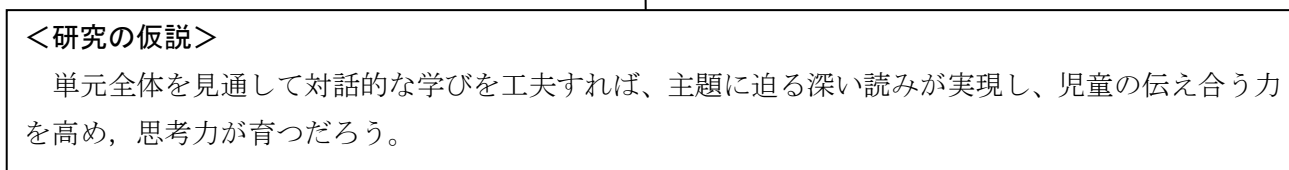
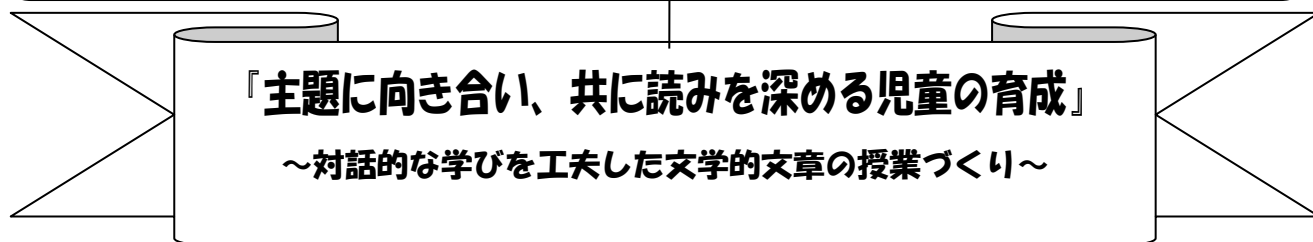
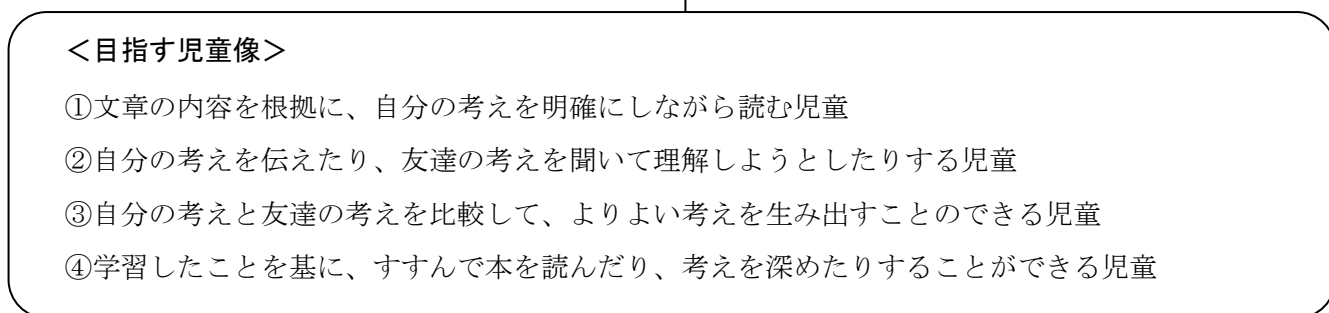
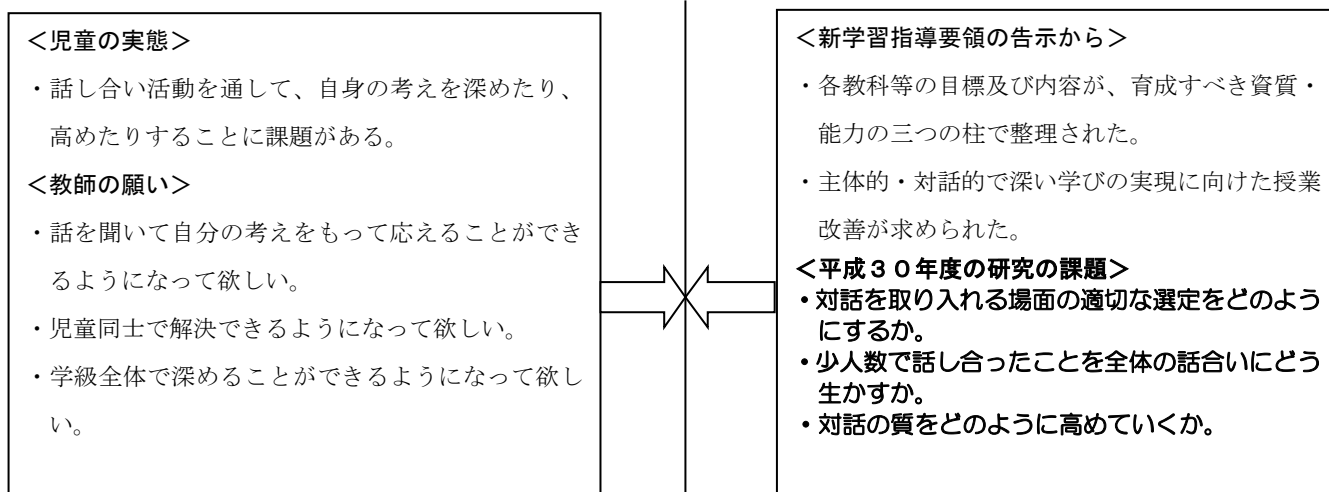
- ・司書と連携した図書室活用の取組

ブックトーク、百科事典の使い方、テーマに沿った図書の紹介など、学習内容に合わせて図書室を活用する。

（5）研究の方法

- 1) 指導者が教材の主題を明確にとらえ、単元の構成や対話的な学びを工夫した授業を日々の指導の中で実践する。
- 2) 年7回の授業研究会を開き、各分科会の提案について全体で検証する。
- 3) 2月末までに各分科会で研究の成果と課題をまとめ、3月に全体で共有する。
- 4) 先進校の授業研究会に参加し、資料提供・報告を行う。

(6) 研究構想図



日程	予定	講師
4月10日(水)	研究全体会	
6月26日(水)	6年	
7月10日(水)	わかくさ	
9月18日(水)	5年	
10月 2日(水)	2年	
11月27日(水)	3年	
1月22日(水)	4年	
2月 5日(水)	1年	
3月11日(水)	研究全体会 本年度をふりかえり、次年度 に生かしていく。	

互いを認め合う言葉があふれる学校